



# 緑丹会 LETTER vol.1

兵庫医科大学緑樹会兵庫北部支部会会報



～ご挨拶～

緑丹会会長 片山 寛

(兵庫医科大学ささやま医療センター病院長・S54年卒・卓球部)

「丹波篠山 山家の猿が 花のお江戸で芝居する」これは、丹波篠山の盆踊りのデカンショ節の歌詞です。市域にはニホンザルの群れが県下で最も多く5つの群れがあるそうです。国保へき地診療所も4か所と、歌の通り丹波篠山市は田舎です。この田舎にあるささやま医療センターは、大学病院として、診療以外に教育と研究にも取り組んでいます。教育は地域基盤型教育を特徴として地域包括ケアとリンクした医療を現場で学びます。診療では、紹介状なしで受診できる病院として、健康問題を持った人が最初に医療にコンタクトしてきますので、まだ診断がついていない人の診療（プライマリ・ケア）を経験します。プライマリ・ケアでは、予防や介護との連携が求められており、総合診療・家庭医療の専門医育成にも取り組み、レジデント、初期研修医、医学部学生と屋根瓦で学ぶ体制を整備しています。先端医療、高度専門医療の西宮キャンパスでは経験できない医療を学んでもらっています。この篠山の地域医療の大学病院での学びが、将来地域で働く多くの卒業生にとって役に立てるように頑張っています。



～ご挨拶～

井上 淳一

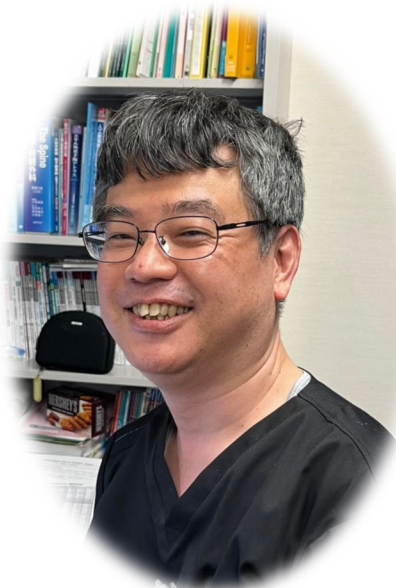
(兵庫医科大学ささやま医療センター放射線科・H1年卒)

丹波篠山市で放射線科医師として兵庫医科大学ささやま医療センターに勤めて20年以上が経ちました。昨年還暦を迎え、息子も関東で研修2年目に入ってます。人生の3/4が過ぎ今後の時間をどう使おうか考えることが多くなりました。当然ですが勤務医は65歳を境に生活パターンが大きく変わります。会社を勤め上げた方が蕎麦教室や、料理学校に通ったりボランティア活動に勤しむのも納得です。(数年前まではこんなこと思いもよせませんでした。)踊る阿呆に観る阿呆同じ阿呆なら踊らにゃ損損とイケケドンドンも少しは懂れますが、体力、気力とも昔とは程遠く、立って半畳寝て一畳天下盗っても二合半、晴耕雨読が今後の無難な生活スタイルでしょうか。(この例えの使い方絶対的に間違ってますよね。突っ込まずサラッと流してください)

文がつつかず、内容を変えます。

緑樹(丹)会に対して余り関心がありません。医学知識の向上、親睦、社会貢献を目的に会を盛り上げて頑張っておられる方々にとって関心が薄い者の存在は歯痒いでしょうし、絡みにくいと思います。同窓会組織に無関心な事は良くないこととは理解しているのですが、お世話になった事や、有り難みを感じた記憶がないことが実情です。最も自発的ではないにしろレターに駄文を挙げたこと、緑樹会のホームページを検索した事総本家緑樹会の会報に目を通した行為などで少しですが関心が持てたことも事実です。この緑丹会レターに目を通す方の関心度がアップすれば幸いです。

～ご挨拶～



4月から西宮の本院救命センターからささやま医療センター整形外科部長兼副院長として赴任してきました。三次救命センターと地域医療は全く別物ではなく、両者は連続していて互いに補完しあうもの。そういった意味で16年間、割と激しい外傷ばかりと戦ってきた後に、あらためて一般の整形外科医として一診療に携わることはとても新鮮に思います。これから、ここで折々の季節の写真とつれづれに感じたことを書き連ねていきますので、今後もよろしくお願ひします。

緑丹会副会長 宮脇 淳志

(兵庫医科大学ささやま医療センター副院長・H3年卒・写真部)

## Dr. Miyawaki ささやまフォトコラム

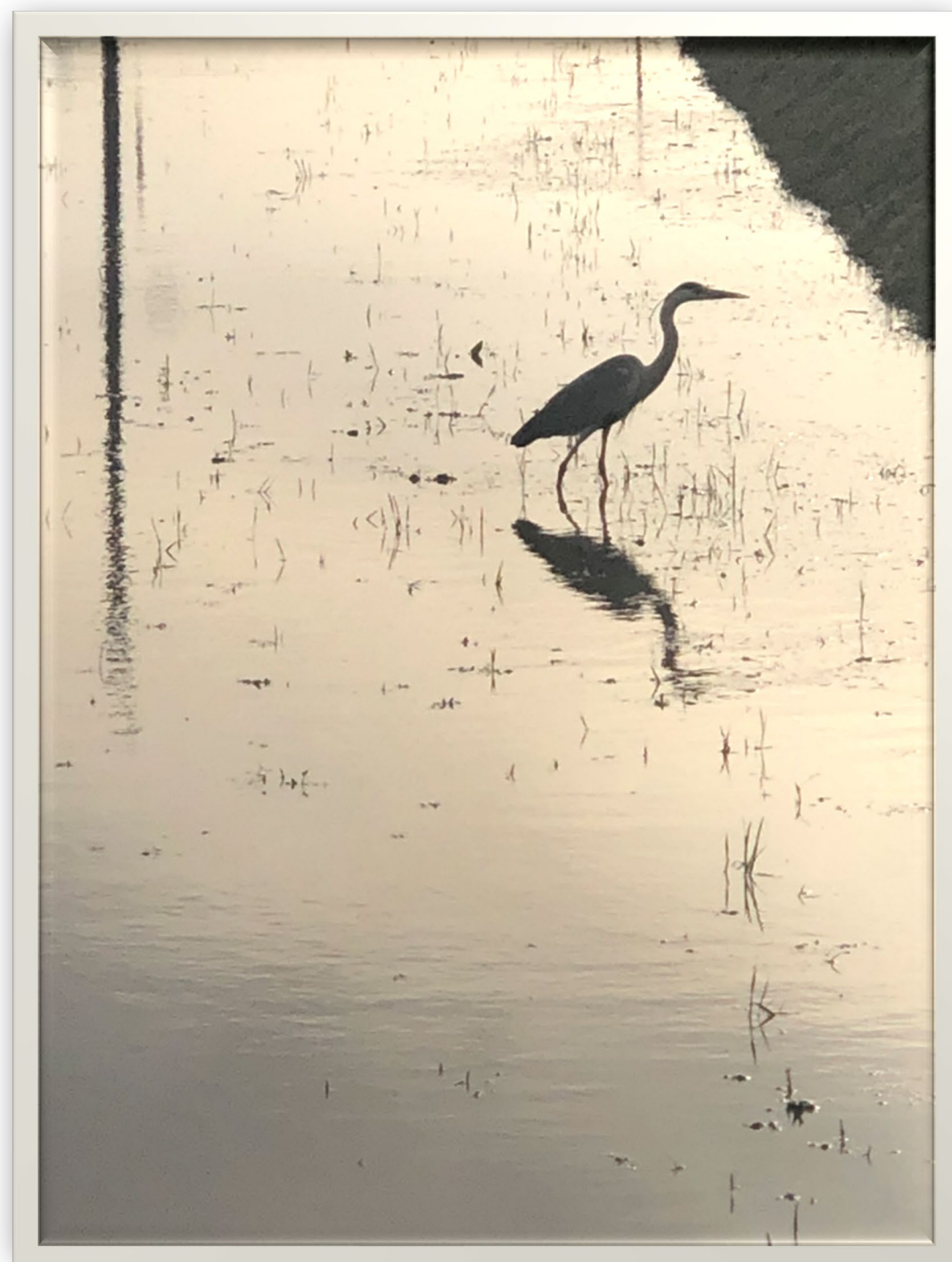


～花絨毯～

4月12日撮影

ささやま医療センター駐車場

「ひさかたの 光喉家器春の日に しづ心なく  
花の散るらむ」 紀友則



～へロン～

4月27日撮影

ささやま医療センター裏の田んぼ

「鳴かないで へロン 雨をよばないで♪」

山下達郎

## レジデント通信

呑海知輝

(消化器内科レジデントA・R1年卒)



ささやま医療センターで1ヶ月間だけですが、消化器内科レジデントAとして勉強させていただきました。いきなりの主当直、総合診療科としての業務と内視鏡など消化器内科としての業務の両立など、当初は不安に思うことが多かったですが、当直の際にはon callとして電話対応していただける上級医が明確にさせていただいており、消化器内科医として主担当医を務める上でも上級医に都度アドバイスいただくことができ、安心して日常の業務をこなすことができました。もちろんスケジュールは忙殺に近いかもしれませんが、レジデントAとしては適切な、充実した生活であったと振り返られます。お世話になりました上級医の先生方、病院内スタッフの方々にこの場をお借りしてお礼申し上げます。短い期間でしたがありがとうございました。

## ～編集後記～

兵庫医大が開校50周年を迎え、兵庫医療大との発展的統合により新生「兵庫医科大学」となった本年春。この記念すべき時期に、“第1号 緑丹レター”を発刊できたことを大変うれしく思います。第1号のコンテンツとして、緑丹会会長である片山病院長、ささやま医療センター功労者である井上先生に寄稿をお願いしました。そして、毎号四季折々の美しい写真を掲載予定のフォトコラムは、緑丹会副会長・ささやま医療センター副院長の宮脇先生にお願いしました。数か月ごとに勤務の本院レジデントにも、レジデント通信として寄稿をお願いしました。本号は消化器内科の呑海先生です。

今後は地域でご活躍の緑丹会会員の先生にも積極的にご寄稿のお願いを予定しております。その折にはどうぞよろしくお願ひいたします。兵庫医科大学は次の50年に向かいます。緑丹会もさらに卒業生の交流を活性化し、大学の発展に寄与できるよう盛り上げていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

緑丹会事務局 中山真美

(兵庫医科大学ささやま医療センター総合診療科・H9年卒・硬式庭球部)



兵庫医科大学同窓会

緑樹会